

地域の空き家活用、事業者との連携を通じNo Borderなコミュニティ形成を行う

- ✓ 空き家を自社でリノベーションして旅館業の許可を得た客室に転換
- ✓ 地域に宿泊・レストラン・大浴場などの宿泊施設の機能を分散させた、まちごとホテル事業
- ✓ 商店街の活性化や空き家活用といった社会課題の解決につなげます



各賞受賞とコロナ禍での営業自粛

少額投資で展開できる斬新な発想や、地域活性化、旅行者と住民との相互理解促進等の持続的観光に大きく寄与する可能性を評価され第6回ジャパン・ツーリズム・アワードにて、観光を通じた地域社会の課題解決・価値向上を進めている取組に贈られる「UNWTO 倫理賞」を2020年9月に受賞しました。またSEKAI HOTEL滞在中のゲストによる地域商店利用回数は21年12月までで延べ9,775回に達しました。

しかし、緊急事態宣言を受け感染症対策のため東大阪のホテルでは数ヶ月の休業を余儀なくされ、その後も週末のみ等不規則な営業日程で受入客数は大幅に減ってしまいました。22年6月に入っても毎週金曜～月曜のみの営業しかできていません。

3つめの拠点を開発中

セカイホテルは 大阪市此花区及び東大阪市の2拠点で営業し、地域に訪れた観光客に対し、その地域におけるローカルライフ体験を「ORDINARY (日常)」と呼んで提供してきました。

富山県高岡市における3番目の新拠点の開発はコロナ感染拡大を受け一時休止していましたが21年の9月に再開しました。藤子・F・不二雄氏も通ったといわれる、高岡市で65年超の歴史を誇る老舗本屋「文苑堂」の本店跡地にフロントを構え、高岡市を支えている富山・高岡独自の風習や文化、地元民だけが知るスポットや家庭料理などを「ORDINARY」として高岡でも提供します。オープンは22年中の予定です。



▲ 文苑堂本店跡地

医療従事者でよかったわ～プラン

22年7月から医療従事者へ感謝を届ける宿泊プランを実施しています。「#景気よくいこう」という合言葉を掲げるSEKAI HOTEL Fuseと商店街が企画し、現職の医療従事者が同行する場合、SEKAI HOTELの基本サービスに加え、二軒目以降の飲食代のツケ払いも全てSEKAI HOTELが負担するというもの。今後も地域事業者と連携して、地域全体で観光客を受け入れることで、地域（観光地）と観光客が“共存する観光”の在り方を新しい旅の選択肢として提案し続けていきます。



医療従事者限定で使用できる「“SEKAI PASS with Heart”」▲
PASSを下げている医療従事者をまち全体で労ってくれる宿泊プラン